

ラパス移住地概要（イタプア県）



ラパス移住地は、首都アスンシオンから約 360km、エンカルナシオン市から約 40km 地点に位置しています。ラパス移住地の総面積は約 25,600 ヘクタールで基幹作物は大豆、冬作には小麦が栽培されており、近年は畜産事業にも取り組んでいます。

ラパス日本人会

ラパスでは日経移住者及びその子弟により日本人会が組織されています。ラパス日本人会では、日本人会事務所に加え、日本語学校運営、薬局の運営、ラパス・イタプア国際文化会館の運営及び文化活動、高齢者福祉支援活動などを行っています。

日本人会傘下には、長寿会、婦人部、青年部等の団体が存在します。

なお、ラパス・イタプア国際文化会館については、2002 年に日本万国博覧会記念協会の補助金により建設されました。



社団法人ラパス日本人会

住所: Distrito de La Paz, Itapúa

電話: (+595 763) 20009

E-mail: asolapaz@yahoo.co.jp

ラパス日本語学校

現在（2022 年 12 月）、日本語学校の生徒数は 68 名、教員数は 7 名です。2002 年に日本語

学校附属幼稚園を併設し、外国語としての日本語教育を実施し、勤勉で人間性豊かな児童生徒の育成を図ると共に、社会の一員としての自覚を深め、次代を担う子供を育成することを目標としています。日本語学校の主な年間行事として、健康診断、行内スピーチ大会、子供の日、運動会、敬老会、デーサービスやスポーツ交流等が年間を通じて行われています。



運動会



子供の日

ラパス農業協同組合

同農協は、1970年に設立され、ラパス移住地の社会経済的発展を促進し、生活の質を向上させ、地元の生産に価値を付加えることを目的としている。2003年には小麦製粉工場が完成し、2010年には家畜用飼料工場の操業も開始され、畜産業も伸び始めています。ラパス農業協同組合は日系農協の中で最も組合数が多く、畑作物生産規模はピラポ、イグアスに続いて3番目です。



製粉工場



飼料工場

その他ラパス参考情報

日系人が経営するスーパーマーケットがあり、日本食品（お米、日本のインスタント食品、

日系人の方々の手作り漬物類、現地の醤油などの調味料、お酒など）や外国から取り寄せた魚介類も販売されています。（パラグアイは内陸国であるため、海の魚介類はすべて輸入されたものです。）経営者が日系人であることから、日本語での買い物が可能です。その他にもラパス農業協同組合が経営するガソリンスタンドにあるサービスエリア「ECOP STOP」でも日本製品や日本食品を買うことができます。



日系の薬局



ラパス市役所



スーパーマーケットなどが並ぶ中心街の道路



日本人の経営するスーパーマーケット

フジ地区・サンタローサ地区



現在のラパス移住地（当時：フラム移住地）は、3つの地区（フジ、ラパス、サンタローサ）から構成されています。1955年からフジに、1956年からラパスに、1957年からサンタローサにそれぞれ入植がはじまり、各地区に自治組織が設立されました。そのときに建設された日本人会館が現在も各地区の日本人・日系人により使用されています。

写真：サンタローサ公民館前に設置されている「顕徳碑」（高知県 溝渕増巳知事）



フジ地区日本人会館



富士地区入植記念碑



サンタローサ公民館



行き方

国道1号線：アスンシオンバスターミナルからエンカルナシオン市行きの長距離バスで約6時間。エンカルナシオン市のバスターミナルからラパス市行きのバスに乗り換え、約1時間程度でラパス市に到着します。もう一つの通路として、イタプア県の Carmen del Parana 市から Graneros del Sur 経路でラパス市に行くこともできます。